令和五年度

本検査　学力検査

国語

問題用紙

（注意事項）

一　放送で指示があるまでは、開いてはいけません。

二　答えは、全て解答用紙に書きなさい。

三　検査問題は、大問七題で、1ページから14ページまで印刷されています。
検査開始後に、印刷のはっきりしないところや、ページが抜けているところがあれば、手を挙げなさい。

四　解答用紙だけ提出し、問題用紙は持ち帰りなさい。

解答上の注意

解答する際に字数制限がある場合には、句読点や「　」などの符号も字数に数えること。

聞き取り検査受検上の注意

(1)　最初に聞き取り検査を行います。

(2)　聞き取り検査は放送で行います。問いも放送します。放送は全て一回だけです。

(3)　放送終了までは、3ページ以降を開いてはいけません。

(4)　放送中に、1ページと2ページにメモをとってもかまいません。

正誤表

「国語」学力検査の問題に一部誤りがありましたので、下記のように対応しました。

訂正

問題用紙　6ページ　大問四(4)
問題文の一行目の文頭

誤	正
文書	文章

令和五年度　本検査　学力検査

国語聞き取り検査放送用ＣＤ台本

（チャイム）

これから、国語の学力検査を行います。まず、問題用紙の1ページと2ページがあることを確認しますので、放送の指示に従いなさい。

（2秒空白）

では、問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

（3秒空白）

確認が終わったら、問題用紙を閉じなさい。1ページと2ページがない人は手を挙げなさい。

（5秒空白）

次に、解答用紙を表にし、受検番号、氏名を書きなさい。

（20秒空白）

最初は聞き取り検査です。これは、放送を聞いて問いに答える検査です。問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

（2秒空白）

一　これから、三田さんが川辺さんに、文化祭のクラスの催し物について相談している場面と、それに関連した問いを四問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

なお、やりとりの途中、（合図音A）という合図のあと、問いを放送します。また、（合図音B）という合図のあと、場面の続きを放送します。

1ページと2ページにメモをとってもかまいません。では、始めます。

三田　川辺さん、文化祭でわたしのクラスはミュージック・カフェをすることになったよ。お客さんは、注文した食べ物を食べながら、わたしのクラスの歌が上手なグループの生演奏を聴けるんだ。そのお店の宣伝文句を考える係になって悩んでいるの。二つ案を考えたのだけれど、相談にのってくれるかな。

川辺　いいよ。考えた宣伝文句を聞かせてよ。

三田　ありがとう。一つ目が、「おいでよ。聞こうよ。歌おうよ。」なのだけれど、どう思う。

川辺　ちょっと待って。「ミュージック・カフェ」についてもう少し詳しく説明してほしいな。

三田　うん、わかった。あのね、教室の前のほうに作ったステージで歌い手は歌うのだけれど、お客さんは曲のリクエストができたり、ステージに上がって一緒に歌えたりするんだ。

（合図音A）

問いの⑴　二人のやりとりのなかで、川辺さんが詳しい説明を求めたのは、宣伝文句のどのような点に疑問を抱いたからですか。その説明として最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

（15秒空白）

（合図音B）

川辺　なるほど。それで「おいでよ。聞こうよ。歌おうよ。」なのだね。リズムがよくて覚えやすいね。語尾がそろっているし、つい口ずさみたくなるよ。

三田　ありがとう。わたしのクラスの歌い手の演奏はプロに負けないくらい上手だよ、しかも一緒に歌えるのでにぎやかで楽しいお店だよ、という思いを込めたんだ。

（合図音A）

問いの⑵　川辺さんと三田さんとでは、宣伝文句に対する着眼点が違います。その「違い」について説明したものとして最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

（18秒空白）

（合図音B）

三田　二つ目の宣伝文句なんだけれど、「行きたい。聞きたい。歌いたい。」というのを考えたよ。こちらはどう思う。

川辺　言葉は似ているけれど、一つ目と発想が違うね。

（合図音A）

問いの⑶　川辺さんは、一つ目と二つ目の宣伝文句を比較して、「発想が違う」と指摘しています。その「違い」について説明したものとして最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

（18秒空白）

（合図音B）

川辺　二つとも悪くはないけれど、一つ目の「おいでよ」や二つ目の「行きたい」よりも、「食べる」という言葉を入れたほうがいいのではないかな。

三田　それはいい案ね。そのほうが、お店の特徴を伝えられているね。

川辺　それだけでなくて、「食べる」「歌う」が宣伝文句に入ることで、にぎやかなお店で食べるのが好きな人は来るだろうし、静かなお店で食べるのが好きな人は避けるだろうから、文化祭に来るお客さんにとって必要な情報だと思うんだ。

三田　たしかにそうだね。川辺さんみたいにいろいろなお客さんの立場を考えることは大切だね。

（合図音A）

問いの⑷　三田さんが川辺さんの説明を聞いて、「いろいろなお客さんの立場を考えることは大切だ」と思ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

（5秒空白）

放送は以上です。3ページ以降も解答しなさい。

※注意　各ページの全ての問題について、解答する際に字数制限がある場合には、句読点や「　」などの符号も字数に数えること。

一　これから、三田さんが川辺さんに、文化祭のクラスの催し物について相談している場面と、それに関連した問いを四問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

（放送が流れます。）

(1)　（問いを放送します。）

［選択肢］

ア　「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明より重視されている点。

イ　「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明以上に活躍している点。

ウ　「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明では存在していない点。

エ　「歌おうよ」の歌う主体が、最初の説明とかみ合っていない点。

(2)　（問いを放送します。）

［選択肢］

ア　川辺さんは言葉の響きに着目しているが、三田さんは言葉が意味することを意識している。

イ　川辺さんは言葉が示す情緒性に着目しているが、三田さんは言葉がもつ音楽性を意識している。

ウ　川辺さんは言葉が及ぼす影響力に着目しているが、三田さんは言葉の規則性を意識している。

エ　川辺さんは言葉の働きに着目しているが、三田さんは言葉の表現技法を意識している。

(3)　（問いを放送します。）

［選択肢］

ア　一つ目は言葉のリズムを重視して作られているが、二つ目は客観性を重視して作られている。

イ　一つ目は親しみを込めて作られているが、二つ目はお店側の願望を込めて作られている。

ウ　一つ目はお店側の立場で作られているが、二つ目はお客側の立場で作られている。

エ　一つ目は個性を伝える目的で作られているが、二つ目は利便性を伝える目的で作られている。

(4)　（問いを放送します。）

［選択肢］

ア　お店の特徴を伝えることで、静かなお店で食事をしたい人に、にぎやかなお店で食事する良さを積極的に教えようとしているから。

イ　お店の特徴を伝えることで、お客さんを集めるためだけでなく、文化祭に来るお客さんがお店選びをしやすいよう配慮しているから。

ウ　お店の特徴を伝えることで、文化祭に来るお客さんが、食事を提供するお店はどこなのかを、見つけられるよう工夫しているから。

エ　お店の特徴を伝えることで、にぎやかなお店が好きな人も静かなお店が好きな人も、一緒に楽しめる空間であることがわかるから。

聞き取り検査終了後、３ページ以降も解答しなさい。

二　次の(1)～(4)の――の漢字の読みを、**ひらがな**で書きなさい。

(1)　作家を招いて講演会を開く。

(2)　私語を慎むように注意を促す。

(3)　曖昧な態度では誤解されやすい。

(4)　あえて辛辣な意見を述べる。

三　次の(1)～(5)の――のカタカナの部分を**漢字**に直して、楷書で書きなさい。

(1)　知り合ってまだ日がアサい。

(2)　初日の出をオガむ。

(3)　映画のヒヒョウをする。

(4)　新しい分野の雑誌をソウカンする。

(5)　年功ジョレツの制度。

四　次の文章を読み、あとの(1)～(6)の問いに答えなさい。

「急ごう」と思ったら、身体はすでに走りはじめていた。

このような体験はないだろうか。振り返って考えてみてほしい。「急ごう」という判断は、「走る」という行為に先行していただろうか。われわれは、「急ごうと思ったから走りはじめる」というように、意識が行動の原因だと信じているが、それは本当だろうか。

たとえば、あなたが自動販売機で缶飲料を買おうと思い、目の前のディスプレイを眺めて何を飲もうかと迷った末に、「オレンジジュース」を選んだとしよう。あなたはこの意思決定こそが、その後の行動の起点になっていると信じているはずだ。

しかし、事実は異なるという。「オレンジジュースにしよう!」という判断よりも先に、あなたの眼球は動きだし、オレンジジュースのディスプレイをすでに凝視しているというのだ。つまり、オレンジジュースを選んだのはあなたの視線なのである。

このように意思決定(選好判断)より前に、視線が無自覚のうちに好きなほうに傾くという現象は、視線のカスケード現象と呼ばれ、広く知られている。「オレンジジュースにしよう!」という意識(意図)が行動の原因であれば、それが時間的に先行していなければならない。しかし実際には、神経系の反応や、それに伴う無意識な動きよりも後に、その意識が生じていることになる。

にわかに信じがたいかもしれない。「意識が行動を決めている」という常識にそぐわないし、何よりわれわれの直観(注1)に反しているからである。

実際、心理学者たちもこの事実の発見に驚き、戸惑った。「［ A ］」と、彼らも信じていたのである。

1980年代以降、われわれの非意識的なはたらき(潜在的認知)に関心が向けられるようになる。とりわけ、迅速性、効率性を特徴とする自動的なモチベーションの研究が盛んになるにつれ、われわれの日常で非意識過程が果たす役割が次々に明らかにされてきた。心理学界において、これは「オートマティシティ(自動性)革命」とも呼ばれる歴史的な出来事だったのである。

一方、われわれの常識の通り、意識が行動の原因である場合も多いことが実証されている。「意識が先か、行為が先か」という二項対立的な問いに大きな意味はない。人は、意識、非意識両方のプロセス(注2)を、時と場合に応じて使い分けているのである。

2002年にノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマン(注3)は、意識と非意識の性質やはたらきを二重プロセスと呼んでいる。

まず、われわれは誰でも2つのシステム(B)、すなわち、システム1とシステム2を持っているという。システム1とは、速い思考、つまり、自動的に高速ではたらき、努力はまったく不要か、必要であってもわずかで、自分がコントロールしているという感覚が一切ない非意識的な「自動操縦モード」を指す。それに対して、システム2とは、遅い思考、つまり、時間をかけて注意を傾けたり、熟考が必要だったりする際に起動する「意識的で努力や自制が必要なモード」を指す。

システム1とシステム2は役割を分担することで、問題を効率的に解決する。システム1は、印象、直観、意志、感触といったものを絶えず生み出してはシステム2に供給する。一方、システム2は、システム1が提供する情報や、それが生み出す無自覚な行動を監視し、制御する。システム1が困難に遭遇すると、システム2が応援に駆り出され、問題解決に役立つ緻密で的確な処理を行うというわけである。

たとえば、驚いた直後に注意深く観察しようとしたり、怒っているときであっても礼儀正しく振る舞ったり、夜に車を運転しているときに警告を発したりするのは、システム1に対するシステム2によるはたらきである。また、食習慣の改善のため、甘いおやつばかりをつい食べてしまうといった悪弊を断ち切るためには、システム2による意識的な努力が不可欠になる。2つのシステムは以上のような役割分担によるC<u>ハイブリッドな仕事</u>をしてくれることで、われわれの生活を支えているのである。

元来、人は生物として、心身のエネルギーを節約し、温存し、効率的に使うようにできている。特に、やる気や意欲といったモチベーション(注4)は心身のエネルギーを消費するので、オンとオフの切り替えが重要になる。やみくもにやる気を発揮しエネルギーを浪費するのは合理的ではないし、そもそも限界があるのだ。そこで、意識と非意識の二重プロセスは、最も少ない努力ですむ方法を選ぶ「最小努力の法則」に基づいて機能する。努力に要する心身のエネルギーは限りある貴重なリソース(注5)なので、システム2への過大な負担を避け、システム全体としてエネルギーを節約する二重プロセスは、生き物としてのわれわれにとってきわめて適応的なのだ。非意識的に行動を起こすシステム1は、モチベーションのD<u>効率化</u>に大いに貢献しているというわけである。

（鹿毛(かげ)雅治(まさはる)『モチベーションの心理学』による。）

（注1）直観＝推理を用いず直接に対象を把握すること。直感とは異なる。
（注2）プロセス＝進める方法や手順。過程。経過。
（注3）ダニエル・カーネマン＝アメリカ合衆国の心理学者、行動経済学者。
（注4）モチベーション＝ここでは心理学的用法。特定の行為が始まり、持続し、方向づけられ、終わるという一定の流れを指す。
（注5）リソース＝供給源。資源。

(1) 文章中の 広く と同じ品詞であるものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア ようやく空が晴れてきた。
イ 楽しい時間を皆で過ごす。
ウ あふれる清水をくみ出す。
エ 静かな環境を大切にする。

(2) 文章中の [A] に入る言葉として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 人間は意識に基づいて行動する合理的な存在だ

イ 人間は非意識的に行動する不合理な存在だ

ウ 人間は体験に基づいて行動する自覚的な存在だ

エ 人間は無意識的に行動する不可解な存在だ

(3) 文章中の B 2つのシステム について次の表のようにまとめる場合、①～⑥に入る言葉として最も適当なものを、あとの**ア**～**カ**のうちから一つずつ選び、その符号を書きなさい。

	モード	はたらき	思考の速度	具体例
システム1	自動的で努力が不要	①	②	③
システム2	努力や自制が必要	④	⑤	⑥

ア 印象、直観、意志、感触を生み出し、供給する

イ 行動を監視し、制御する

ウ 速い思考

エ 遅い思考

オ 「オレンジジュースにしよう！」という判断

カ 無自覚な眼球（視線）の動き

(4) 文章中の C ハイブリッドな仕事 を説明した、次の文章を完成させなさい。ただし、[Ⅰ]、[Ⅱ] に入る言葉として、4ページ・5ページの文章中から [Ⅰ] は**二十二字**で**抜き出して**、**はじめの五字**を書き、[Ⅱ] は**十三字**で**抜き出して**書きなさい。

> ハイブリッドな仕事とは、異なるものが組み合わさり、動くことであり、ここでは、非意識的なシステム1と、意識的なシステム2が、[Ⅰ] ということである。これを文章中の別の言葉で言い換えると [Ⅱ] というはたらきを指している。

(5) 文章中の D効率化 について、筆者が著した次の文章を参考にして、あとの問いに答えなさい。

> 習慣とは、体験を通して獲得される行動傾向性のひとつで、意識や努力の感覚なしに特定の行動を成功裏に遂行できる能力を指す。いわば行為が身体化した状態だといえる。
>
> すべての習慣を失った生活を想像してみてほしい。「次は何をすべきか」といちいち立ち止まって、その都度、その状況に適応的なやり方を考え出さなければならなくなる。いかに面倒かがわかるだろう。われわれは習慣による自動化の恩恵を受けているのである。
>
> （鹿毛(かげ)雅治(まさはる)『モチベーションの心理学』による。）

問い　モチベーションの「効率化」のために習慣が果たす役割をあとのようにまとめます。［Ⅰ］～［Ⅲ］に入る言葉を書きなさい。ただし、次の①、②にしたがって書くこと。

①　［Ⅰ］は、「システム1」か「システム2」のいずれかを書くこと。

②　［Ⅱ］は4ページ・5ページの文章中から**二十三字**で**抜き出して**、**はじめの三字**を書きなさい。［Ⅲ］は**十五字以上、二十字以内**で書きなさい。

> ①　習慣は、2つのシステムのうち［Ⅰ］にあたる。よって、習慣による自動化とは、［Ⅱ］状態だといえる。
>
> ②　モチベーションの「効率化」のために習慣を取り入れると、モチベーションによって［Ⅲ］ことにつながる。

(6) この文章の構成について説明したものとして最も適当なものを、次の**ア～エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア　前半は思考と行動の決め方の順番を明快に示して問題を提起し、後半は学者の提唱する理論の証明と筆者の見解とをまとめている。

イ　前半は一般的で身近な例と関連する心理学の研究状況を紹介し、後半は意識と非意識の相違点を比較した調査内容を整理している。

ウ　前半は日常の例を用いて心理学の理論の歴史的出来事を説明し、後半は2つのシステムの優劣を判断するための分析を行っている。

エ　前半は具体例から意識と行動の関係が常識と異なることを示し、後半は意識と非意識の持つ性質やはたらきの重要性を述べている。

五 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

> コンクールで他の出場者との圧倒的な力の差を感じた陽菜(はるな)は、フルートが吹けなくなってしまった。しばらく姉の亜季(あき)が住む奥瀬見(おくせみ)で過ごすことにしたが、そこでオルガン制作職人である芦原(あしはら)さんと、その娘の朋子(ともこ)に出会い、パイプオルガン制作を手伝うようになった。

「フルート、やめるんだって?」

亜季姉から聞いたのだろう。咎(とが)めるような口調だった。

「やめるなんて言ってないよ。ちょっと、迷ってるだけ」

「オルガンを作り終えたらフルートに戻るって、陽菜、言ってた。あれは嘘(うそ)だったの?」

「でも、オルガン、まだ作り終えてないじゃん」

「ごまかさないでよ。陽菜、オルガンビルダー(注1)になるつもり?」

返事ができない私を、朋子は黙って見つめてくる。上空を吹く風が、ごうっとひときわ派手な音を立てた。

「さっき吹いてた曲、あれ、コンクールでやった曲だよね?」

「聴いてたの? ていうか、よく覚えてるね」

「あのコンクールは、衝撃的だったから。私と同じ年くらいの人たちが、華やかな舞台に立ってて、鎬(しのぎ)(注2)を削ってる。オルガンビルダーには同世代の仲間とかいないから、すごく羨ましかった」

「入賞した三人のことは覚えてる? 私とはレベルの違う演奏だったよね」

「私はフルートのことはよく判(わか)らない。みんな同じくらい、素晴らしかったと思う。だから私は、陽菜がなんでフルートをやめようとしてるのか判らない」

――みんな同じくらい、素晴らしくなんかない。

朋子は、私と三人の狭間(はざま)にあった確かな断絶を、聞き分けられていない。だから、そんなことが言えるんだ。

「陽菜は、フルートをやったほうがいいよ。やめないほうがいい」

「私は、オルガンが向いてると思ってる」

亜季姉にも言えなかったことが、A<u>すっと出てきた</u>。

「私には、個性がないんだよ。好きな演奏がたくさんあって、好きな音がたくさんあって、自分の演奏はこれだってものがないんだ。フルート奏者はそれじゃ許されない」

「なら、探せばいい。自分の強い個性を」

「それを、オルガンで見つけられたと思ってる。オルガンは演奏するにしても、作るにしても、強い個性を持ったストップ(注3)たちを組み合わせていく作業だよね。私にはそういう作業のほうが向いてる。フルートよりオルガンのほうが向いてる」

B<u>自分でも止められないほどに</u>、言葉がヒートアップ(注4)していく。

「朋子と一緒に整音(せいおん)(注5)をしたのは、すごくやりがいがあった。私がやるべき仕事はこっちなんだって、そう思ったよ。オルガンを弾いたり作ったりする仕事こそが、私にとって……」

「私は、自分がオルガンに向いてるかなんて、考えたことがない」

朋子の声は、困惑していた。

「自分に向いてるか向いてないかなんて、どうでもいい。私にはオルガン作りしかなかった。だから、オルガンを作ってる」

「やろうとしてることが向いてるか向いてないか、普通は考えるでしょ?」

「父だって別に、向いてるからオルガンビルダーになったわけじゃない。オルガンが何よりも好きだっただけだよ」

朋子が足を止めた。

上空を吹き荒れている風が、地上にも降りてきている。この二ヶ月間、私を包み込んでくれていた奥瀬見の自然が、わずかに牙を剝(む)いている感じがする。

「陽菜は、本当は何になりたいの?」

「何に――」

「コンクールで一位を取りたかったんじゃないの? 音大に行きたかったんじゃないの? フルート奏者として、スポットライトを浴びたかったんじゃないの?」

「でもそれは、私には向いてないんだよ」

「そんな話はしてない。ごまかさないで」

朋子は、強い人だ。子供のころからぶれずに、一貫してオルガンビルダーの道を歩んでいる。自分の技術を高め、十九歳にして周囲の大人を驚嘆させるほどの技術を誇っている。

「C私は朋子みたいに、生きられない」

朋子はじっと、私を見つめている。

「フルート奏者になりたいよ。でも、それは私には、無理なんだ」

私には、私のフルートが、ないのだから。

朋子の目の中には、落胆も怒りもない。パイプの凹凸を丁寧に確認するような、冷静な色だけをたたえている。でも、Dこれが私なのだ。自分を晒(さら)すつもりで、私は朋子の視線を浴び続ける。

ふと、背後に人の気配を感じた。

「芦原さん――」

いつからそこにいたのだろう。振り返ると、そこに、芦原さんが立っていた。

「こんなことになるとは、思っていませんでした」

芦原さんは、残念そうに言った。

「今回のオルガンは、街ぐるみで作ろうと思っていました。僕にはない発想、僕にはない感性、そういうものを統合して、新しいオルガンを作るためです。だからあなたを誘ったのです。あなたにとっても、オルガン制作をフルートに活(い)かしてもらえると思った。お互いによい影響があるはずだったのに――」

「私は、いい影響だったと思ってます」

「僕はオルガンビルダーになりたがる人をたくさん見てきました。そのほとんどが志半ばで潰れます。儲(もう)からないですし、重労働です。心理的な負荷も高い。僕は還暦を迎えていますが、この仕事をはじめてから三十年以上、ずっと自分の無力さに打ちのめされています。向いていようがいまいが、大半は潰れる世界です」

「Eじゃあ芦原さんはなぜ、オルガンビルダーを続けられているんですか」

（逸木裕(いつきゆう)『風を彩(いろど)る怪物』による。）

（注1）　オルガンビルダー＝オルガン制作をする職人。
（注2）　鎬を削ってる＝「鎬を削る」は、激しく争うこと。
（注3）　ストップ＝オルガンの音色のこと。どの音色を鳴らすのか選択するシステムのことを指す場合もある。
（注4）　ヒートアップ＝激しくなること。
（注5）　整音＝演奏の目的にあった状態にオルガンを調整し、音色を作っていくこと。

(1)　文章中に A すっと出てきた、B 自分でも止められないほどに　とあるが、これは陽菜のどのような様子を伝えているか。最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア　これまで閉じ込めてきた思いが言葉となって発せられることに、自分自身戸惑いつつも、興奮を抑えきれないでいる様子。

イ　朋子に問いかけられたことで、ようやく秘密を打ち明けることができ、開放的な気分になり、喜びに満たされている様子。

ウ　これまで我慢して口を閉ざしてきたが、勇気をふりしぼって自分の考えを述べることに、あらゆる力をそそいでいる様子。

エ　朋子の率直な問いかけに、自分の中にあったこだわりが薄れ、素直に心の内を話そうと決意して、必死に言葉を探す様子。

(2)　文章中に C 私は朋子みたいに、生きられない　とあるが、陽菜と朋子の考え方の違いを説明した、次の文章を完成させなさい。ただし、［Ⅰ］は**七字以内**で書き、［Ⅱ］は文章中の言葉を使って、**八字以内**で書きなさい。

> 陽菜の進路に対して、陽菜自身は、コンクールに入賞できなかったこともあり、個性がないことを［Ⅰ］ことによって自覚し、向き不向きを考えて進路を決めようとしている。一方、朋子は、何が好きであるのかや［Ⅱ］を重視している。

(3)　文章中に D これが私　とあるが、その「私」の説明として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア　周囲の高度な技術力に衝撃を受け、意欲を失い、将来に対して無気力な状態の私。

イ　周囲の期待に応えられず、自信を失い、音楽に関することから離れようとする私。

ウ　周囲の迫力ある演奏に驚嘆し、意欲を失い、自分の才能を生かしきれずにいる私。

エ　周囲の才能に圧倒され、自信を失い、自分の信念を貫くことができないでいる私。

(4) 文章中にE芦原さんはなぜ、オルガンビルダーを続けられているんですかとあるが、このときの陽菜の心情を説明したものとして最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア たとえ才能がなくても、音楽に関わっていたいという自分の思いを少しも理解しようとしてくれないことに、いらだっている。

イ ようやく向いていることを見つけ、新たな道に進む気持ちになったのに、それをくじくような事実を告げられ、当惑している。

ウ 自分の未熟さを認め、前向きに今できることを探して行動しているのに、経済的な面だけ心配され、プライドが傷ついている。

エ 奥瀬見で過ごしてきた日々について、肯定的にとらえようと努力している自分を、真っ向から否定され、怒りがこみ上げている。

(5) 次は、この文章を読んだあとに、森さんと原さんが表現の効果について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

> 森さん　私は、風の描写が印象に残ったな。最初は [Ⅰ] 風が、次には [Ⅱ] と表現されることで、緊迫感が増したよ。ここは陽菜と朋子の考え方の違いが明らかになる場面だから、会話の雰囲気にぴったりだ。
>
> 原さん　そうね。私は、「私を包み込んでくれていた奥瀬見の自然が、わずかに牙を剥いている感じがする」が気になったわ。「感じがする」わけだから、あくまで陽菜の主観なのだけれど、だからこそ、この感覚の変化は陽菜の状況の変化と深い関係にあると思うわ。
>
> 森さん　そうか。これまで自分を [Ⅲ] ものだった奥瀬見の自然が、陽菜にとって違う意味を持ち始めたわけだね。

(a) [Ⅰ]、[Ⅱ] に入る言葉を、8ページ・9ページの文章中から [Ⅰ] は**五字**で、[Ⅱ] は**十一字**で、それぞれ**抜き出して**書きなさい。

(b) [Ⅲ] に入る言葉として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 激励する　**イ** 誘導する　**ウ** 保護する　**エ** 隠蔽する

(c) 次は、森さんと原さんが感覚の変化は陽菜の状況の変化と深い関係にあるについて、考えをまとめた表です。[X]、[Y] に入る言葉を、[X] は**三十字以上、四十字以内**で、[Y] は**漢字二字**で書きなさい。

〔奥瀬見から受ける陽菜の感覚と状況との関係〕

陽菜の感覚		陽菜の状況
奥瀬見が包み込んでくれていた。	⇦	奥瀬見でオルガン制作の魅力を知り、やりがいを感じ始めた。
奥瀬見が牙を剥いている。	⇦	[X] ことを示しているようで、奥瀬見に [Y] されている気分になる。

六 次の文章を読み、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

これも今は昔、ある僧、人のもとへ行きけり。[A]酒など勧めけるに、氷魚(ひを)(注)はじめて出で来たりければ(初物として出回り始めたので)、あるじ珍しく思ひて、もてなしけり。あるじ用の事ありて、内へ入りて、また出でたりけるに(出て来て見ると)、この氷魚の殊(こと)の外(ほか)に少なくなりたりければ、あるじ、[B]いかにと思へども(変だなとは思ったが)、いふべきやうもなかりければ、物語しゐたりける程に(雑談をしているうちに)、この僧の鼻より氷魚の一つふと(不意に)出でたりければ、あるじあやしう覚えて、「その鼻より氷魚の出でたるは、いかなる事にか(どうしたことです)」といひければ、取りもあへず(即座に)、[C]「この比(ごろ)の氷魚は目鼻より降り候(さぶら)ふなるぞ」といひたりければ、人皆、「は」と笑ひけり(「わっ」と笑った)。

(『宇治拾遺物語』による。)

(注) 氷魚＝アユの稚魚。色は半透明で、体長三センチメートル程度。

(1) 文章中の あやしう を現代仮名づかいに改め、**ひらがな**で書きなさい。

(2) 文章中の [A]酒など勧めけるに の主語にあたるものとして最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア あるじ　**イ** ある僧　**ウ** 氷魚　**エ** 作者

(3) 文章中の [B]いかに とあるじが思ったのはなぜか。「氷魚が……」に続く形で**二十字以上、二十五字以内**で書きなさい。

(4) 次は、この文章を読んだあとに、花田さんと月森さんが文章中のC<u>この比の氷魚は目鼻より降り候ふなるぞ</u>について、話し合った場面の一部です。これを読んで、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

> 花田さん　この発言を聞いて、その場にいた人は皆笑ったとありますが、どこが面白かったのでしょうか。
>
> 月森さん　この発言は、鼻から氷魚が出たことをあるじから問われて、とっさに答えたものですよね。鼻から氷魚が出てくるということは、この僧は、氷魚を［　　　］と考えられますね。しかも、おそらく大量の氷魚を。
>
> 花田さん　なるほど。だから不意に出てきてしまったのですね。でも、なぜこの発言では、氷魚が「出る」ではなく「降る」なのでしょうか。
>
> 月森さん　それは、「氷魚」という言葉の読み方、すなわち音の響きをふまえて発言したからではないでしょうか。即座に機転をきかせた発言だからこそ、人々の笑いを引き起こしたのでしょう。
>
> 花田さん　僧と食事の関係で言えば、香りの強い野菜や酒を、持ち込むことを禁じていた寺もあったようですよ。
>
> 月森さん　「<u>不許葷酒入山門</u>」ですね。実際に、寺の門のそばにある石柱に書かれているのを見たことがあります。時代背景を考えると、さらにこの文章の面白味が増しますね。

(a) 文章中の［　　　］に入る言葉を、**五字以上、十字以内**で書きなさい。

(b) この僧の、機転をきかせたと考えられる内容として最も適当なものを、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 鼻から出た氷魚を、激しく吹き荒れる雨に見立てることで、その場を取り繕おうとした。

イ 鼻から出た氷魚を、眼球をうるおした涙に見立てることで、その場を取り繕おうとした。

ウ 鼻から出た氷魚に、氷のかたまりであるひょう(雹)をかけて、その場を取り繕おうとした。

エ 鼻から出た氷魚に、棒状の氷であるつらら(氷柱)をかけて、その場を取り繕おうとした。

(c) 文章中の<u>不許葷酒入山門</u>は、「葷酒山門に入るを許さず」と訓読し、次の「葷　酒　入ルヲ　山　門ニ」はその一部である。訓読文を参考にして、これに**返り点**をつけなさい。

葷　酒　入ルヲ　山　門ニ

七

次の【資料】は、「日本と諸外国との文化交流を進めることの意義」について質問した結果〈複数回答〉の一部です。これに関して、あとの〈条件〉にしたがい、〈注意事項〉を守って、あなたの考えを書きなさい。

【資料】

「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」と回答した人の年齢別の割合

年齢別	20 − 29 歳	22.6 %
	30 − 39 歳	23.8 %
	40 − 49 歳	24.3 %
	50 − 59 歳	24.6 %
	60 − 69 歳	31.9 %
	70 歳以上	41.1 %

（文化庁「文化に関する世論調査　報告書（令和4年3月）」より作成）

〈条件〉

① **二段落構成**とし、**十行以内**で書くこと。

② 前段では、【資料】から読み取ったことと、それに対するあなたの考えを書くこと。

③ 後段では、前段をふまえて、あなたが今後諸外国との文化交流を行う機会があったら、具体的にどのような交流を行いたいかを、その理由とともに書くこと。

〈注意事項〉

① 氏名や題名は書かないこと。

② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。
ただし、〜〜や══などの記号を用いた訂正はしないこと。

令和五年度　本検査　学力検査　国語　正解表

問題番号		正解	配点	配点及び注意	計
一	(1)	エ	各2		8
	(2)	ア			
	(3)	ウ			
	(4)	イ			
二	(1)	まね	各2		8
	(2)	つつし			
	(3)	あいまい			
	(4)	しんらつ			
三	(1)	浅	各2		10
	(2)	拝			
	(3)	批評			
	(4)	創刊			
	(5)	序列			
四	(1)	イ	各2		22
	(2)	ア			
	(3)	①ア　②ウ　③カ　④イ　⑤エ　⑥オ	3	完答とする。	
	(4)	Ⅰ 役割を分担　Ⅱ 意識と非意識の二重プロセス	各2		
	(5)	Ⅰ システム1　Ⅱ 自分が	各2		
	(5)	Ⅲ 消費される心身のエネルギーを節約する	4	同趣旨ならば正解とする。部分点を与えてもよい。	
	(6)	エ	3		
五	(1)	ア	各2		23
	(2)	Ⅰ 他人と比較する　Ⅱ 何になりたいのか		(2)Ⅰ、Ⅱは同趣旨ならば正解とする。	
	(3)	エ	各2		
	(4)	イ			
	(5)	(a) Ⅰ 上空を吹く　Ⅱ 地上にも降りてきている　(b) ウ	各2		
	(5)	(c) X フルート奏者が無理だからオルガンビルダーを志すことは、自分の弱さから逃げている	4	同趣旨ならば正解とする。部分点を与えてもよい。	
	(5)	(c) Y 非難	3	同趣旨ならば正解とする。	
六	(1)	あやしゅう	2		17
	(2)	ア	2		
	(3)	短時間の内に、思いのほか少なくなっていたから。	4	同趣旨ならば正解とする。部分点を与えてもよい。	
	(4)	(a) あわてて口に入れた	3	同趣旨ならば正解とする。	
	(4)	(b) ウ	3		
	(4)	(c) 葷酒入ルヲ二山門ニ一	3		
七		(解答例)　資料では、年齢が上がるにつれて数値が高くなっている。戦後間もない頃を知る世代ほど、文化交流の意義を相互理解に求め、平和を願う傾向にあるのではないかと考える。 私は食を通じて文化交流を深めたい。例えば、日本食の特徴の他、食器の並べ方や使い方などの独特な作法を伝えたい。万国共通して食は人が生きる上で大切なものだから、私たち若い世代でも、食文化を伝え合うことを通して相互理解につなげられると思う。		以下の観点を参考に、採点基準の細部については各学校で定める。 ○内容 ○行数・段落構成 ○表現・表記 ※全ての条件を満たしていない場合でも、部分点を与えてもよい。	12
合計					100